

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 家庭科 科目 家庭総合

教科： 家庭科 科目： 家庭総合 単位数： 2 単位
 対象学年組：第 1 学年 1 組～ 5 組
 教科担当者：（ 1 組～5 組：金子・細谷 ）
 使用教科書：（ 「家総703家庭総合」実教出版 ）
 教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会のかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	人と衣服のかかわり 【知識及び技能】 人はなぜ衣服を着るのかを理解する。 衣服のTPOとは何かを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 衣服が持つ機能や安全性について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 どれも快適な衣生活を送るためにはどうするか主体的に学ぶ。	・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服のTPO、習わしについて考える。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服が持つ機能や安全性について考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。	【知識・技能】 衣服を着るようになった理由、TPOによる着方や着装の工夫を理解している。 【思考・判断・表現】 衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心を持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	持続可能な衣生活をつくる 【知識及び技能】 現在の私たちの衣生活について、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 私たちの衣生活が環境や世界とどのようにつながっているのかを考える。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の衣生活をふり返る。	・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができていることを考える。	【知識・技能】 持続可能な衣生活について理解している。 【思考・判断・表現】 不要となった衣類について、リサイクルに回す、つくりかえるなど、実生活において実践することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができている。	○	○	○	2
	自分の未来予想図を描こう 【知識及び技能】 ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の特徴や長所に気づき、人生を展望できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 今の自分を見つめ、将来を展望できるようにする。	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題を考える。 ・今の自分について自己分析を行い、未来予想図を描く。	【知識・技能】 自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができている。 【思考・判断・表現】 人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。	○	○	○	2
	自立と共生 【知識及び技能】 男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 どのような青年期を生きるかを考えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 将来の自分自身と社会のあり方を展望する。	・「大人」と自分を比較し、不足している点を考える。 ・青年期の特徴について学ぶ。 ・これからの自分自身と社会のあり方を展望する。	【知識・技能】 青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できている。 【思考・判断・表現】 これからの自分自身と社会のあり方を展望できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。	○	○	○	2
衣服をつくろう 【知識及び技能】 衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組む。	・日常着を製作する。 ・刺し子糸の色使いを工夫する。 ・毎時間の縫製目標を達成させる。	【知識・技能】 衣服製作実習を通して、材料の選択、日常の管理の方法を習得している。 【思考・判断・表現】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	8	
定期考査							
2 学 期	衣服をつくろう 【知識及び技能】 衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組む。	・日常着を製作する。 ・刺し子糸の色使いを工夫する。 ・毎時間の縫製目標を達成させる。	【知識・技能】 衣服製作実習を通して、材料の選択、日常の管理の方法を習得している。 【思考・判断・表現】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	10
	ライフキャリア 【知識及び技能】 労働の種類とその意義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 労働の意義、またその意義について多面的に検討できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 労働を支える社会や地域のしくみを知ること、私たちがその一員であるという自覚を持つことができるようにする。	・働く意義とどのような仕事（職場）で働きたいと思うかを考える。 ・職業労働と家事労働の違いをまとめる。 ・職業生活や家庭生活における時間の使い方について考える。	【知識・技能】 生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できている。 【思考・判断・表現】 現在の生活時間の状況をふまえて、生活時間と労働との関係について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 労働の意義や役割、労働時間と生活時間とのかわりについて関心を持ち、現在の家族、家庭が抱える課題を見いだそうとしている。	○	○	○	2
共に生きる家族 【知識及び技能】 結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 時代とともに変化する家族・家庭について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 現在の家族の抱える課題を考える。	・「家族」の条件とは何かを考える。 ・家族のライフイベントについて考える。 ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。	【知識・技能】 結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できている。 【思考・判断・表現】 現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め、表現することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかわっているのか、興味・関心を持とうとしている。	○	○	○	2	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭科 科目 家庭総合

教科： 家庭科 科目： 家庭総合 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： （ 1 組～5 組：山藤・金子・細谷・稲田

使用教科書： （ 「家総703家庭総合」実教出版 ）

教科 家庭科 の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	家庭科を学ぶにあたって	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、ノートやファイルの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。 家庭科がSDGsと深く関わっていることを理解する。 	【知識・技能】 ・家庭科とSDGsの関わりについて理解できている 【思考・判断・表現】 ・視聴覚教材の感想が書けている 【主体的に学習に取り組む態度】 これから1年間家庭科を頑張ろうという意欲がみられる。	○	○	○	2
	第6章 食生活をつくる 1節 人と食物のかかわり 気候風土や宗教による食生活の違いを学ぶ 世界の食について調べ、その多様性を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 食事の意義を理解する 日本の食文化の形成および和食の特徴を理解する。 	【知識・技能】 各地の気候風土や宗教による食生活の違いを理解するとともに、日本の食文化について理解できている。 【思考・判断・表現】 地域の食文化やそれが発達してきた背景などについて教科書などから情報を収集してまとめることができる	○	○		2
	2節 私たちの食生活 各自の食生活の問題点に気づく 調理実習を通して、基本的調理技術を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 衛生と安全に配慮して実習を行うことができる。 	【知識・技能】 ・食文化や食生活をとりまく環境から、食事の意義や役割を理解できている。 ・必要な調理技術を身につけている 【思考・判断・表現】 調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食文化や自分自身の食生活について関心がもち、意欲的に改善・向上につとめようとする。 ・調理実習において、積極的に参加し、取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第3章 子どもとかわる 1節 子どもとは ・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育て、はぐんでいくことの責任感を養う。 ・子どもの感じ方について出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながることを理解する。 子どもの世界を出会うことで、自己理解を深める。 	【思考・判断・表現】 ・子どもの世界について、自分の子どものころを思い起こしながら、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生命の尊さについて、自分の現在、将来を結びつけながら、学習しようとする意欲がある。			○	4
	2節 子どもの発達 子どもの発達について考える。 子どものからだの成長について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいの中で発達していくことを理解する。 	【知識・技能】 子どもの心身の発達や生活について知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 得た知識の中から課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。	○	○		8
	確認テスト						
	第6章 食生活をつくる 3節 栄養と食品のかかわり 栄養素について学び、バランスの良い食事について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれている食品についての基礎知識を身につける。 	【知識・技能】 栄養・食品に関する知識や調理の技術を身につけ、それを実生活に生かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品、栄養に関する知識や調理において、知識を深めようとしている	○		○	8

2 学 期	4節 食品の選び方と安全 旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ 調理実習を通して、基本的調理技術を身につける。	・季節ごとに旬の食材があることを理解する。 ・衛生と安全に配慮して調理実習を行うことができる。	【知識・技能】 ・旬の食材になにがあるか、なぜ旬の食材がいいのか理解している。 ・必要な調理技術を身につけている 【思考・判断・表現】 ・旬の食材を使用した献立を考えることができる。 ・調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理実習において、積極的に参加し、取り組もうとしている。	○	○	○	6
	第3章 子どもとかわる 3節 子どもの生活 子どもの基本的な生活習慣や社会的な生活習慣の身につけ方を学ぶ 絵本作りや読み聞かせを通して、子どもの遊びの意義や課題について考える。	・子どもの食生活。衣生活について理解を深める。	【知識・技能】 基本的な生活習慣の身につけ方を理解できる。 【思考・判断・表現】 子どもの関心・興味のあるようなおもちゃを創意工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どものためのおもちゃづくりなどの実践活動に積極的に参加している。	○	○	○	12
	確認テスト						
3 学 期	第8章 住生活をつくる 1節 人間と住まい 気候風土と住まいの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える 2節 住まいの分化 日本の伝統的な住居や工夫を里香氏し、現代に生かすことのできる和の文化をまとめる。	・住まいはどのような機能を持ち、人の生活がどうかかわっているか理解する。 ・日本の住まいの変遷、生活様式を理解する。	【知識・技能】 住居の機能や気候・風土のかかわりに関心を持ち、各地の気候・風土に適した住まいを理解している 【思考・判断・表現】 日本各地の伝統的な住居について、工夫を見つけることができる。	○	○		4
	3節 住まいを計画する 快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。	・住まいの生活空間の機能を理解し、空間の特徴や家族のイメージをすることができるようにする。	【知識・技能】 家族構成やライフステージなどから、平面図を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 住空間の設計とライフステージの関係、住環境などについて考えを深めることができる 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい住生活の創造に向けて意欲的に取り組もうとする。	○	○	○	6
	食生活をつくる 4節 食品の選び方と安全 食品衛生について学ぶ 5節 食事計画と調理 調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。	・食中毒の予防法を理解する ・衛生と安全に配慮して、調理することができる。	【知識・技能】 ・食中毒の予防法や、食品添加物の特徴を理解している。 ・必要な調理技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 調理実習において、積極的に参加し、取り組もうとしている。	○	○	○	10
	確認テスト						70

教科・科目	家庭・家庭総合 必修	2単位	対象学年・組	1学年全クラス
教科書	家庭総合（実教出版）	教科担任	金子・細谷	

1 目 標

- ・ 人の一生を見据えながら自分の人生を考え、生活観を獲得し、精神的自立を目指す。グループ学習をしながら、コミュニケーション能力を養う。

2 学習の到達目標

- ・ 授業の課題をこなし、学習目標を達成できるよう授業に取り組む。

3 学習内容と学習上の留意点

1クラス2展開で実施。展開1と2を交互に学習する。

◎展開1

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	衣生活をつくる	1 3	よりよい衣生活を創造する衣服をつくろう	集中して作業に取り組む。手作りの良さを知る。
二学期	衣生活をつくる	1 4	衣服をつくろう	集中して作業に取り組む。手作りの良さを知る。
三学期	衣生活をつくる 社会とかかわって生きる	8	人と衣服のかかわり 私たちの衣生活 衣服は何からできているのか 支えあう暮らしとは	社会で支え合っている仕組みを学び、自分にできることを考える。

◎展開2

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	自分らしく生きる	1 3	自分をみつめる	自己分析をするとともに、家庭総合の学習における目標を持つ。
二学期	家族とかかわって生きる	1 3	家族って何だろう 家族と法律	時代とともに変わる家族のかたちを考え、その問題点をさぐる。
三学期	消費行動を考える	8	主体的な消費行動 消費者の権利と責任	複雑化する消費生活を認識する

4 学習方法と生徒への注意

- ・ 教員による講義・グループ学習や被服実習及び実験実習に取り組む。
- ・ 各授業において、集中力を持って取り組み、学習目標を達成できるように努力する。

5 評価の観点・方法

- ・ 欠席遅刻
- ・ 課題への取り組み、提出期限
- ・ 授業態度

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
			○	○		○			

令和5年度 年間授業計画 東京都立蒲田高等学校

教科・科目	家庭・家庭総合 必修	2単位	対象学年・組	2学年全クラス
教科書	家庭総合（実教出版）	教科担任	山藤・金子・稲田・細谷	

- 1 目 標
 - ・ 人との関わりあいを通して自分をみつめ、自立と自律を目指し、自らの生活をデザインする力を身につける。
- 2 学習の到達目標
 - ・ 家庭生活における基礎・基本の知識と技術の習得。
 - ・ 目標達成に向かって、各単元の課題に取り組む。
- 3 学習内容と学習上の留意点
 - 1クラス2展開で実施。展開1と2を交互に学習する。

◎展開1

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	食生活をつくる	1 3	人と食物のかかわり 栄養と食品のかかわり	食事内容の選択における自己管理能力を身につける。 実習を通して、基本的な知識と技術の習得を目指す。
二学期	食生活をつくる	1 4	栄養と食品のかかわり 食品の選び方と安全	栄養素についての知識を得る 実習を通して、基本的な知識と技術の習得を目指す。
三学期	食生活をつくる	8	食生活をデザインする	食の安全や環境などを理解する。 実習を通して、基本的な知識と技術の習得を目指す。

◎展開2

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	子どもとかかわって生きる	1 3	生命の誕生 心身の豊かな発達 子どもの生活を知る 児童文化財の製作	思春期の心と体の健康を目指すとともに、生命の誕生と子どもの発達について考える。
二学期	子どもとかかわって生きる	1 3	子どもの生活を知る 児童文化財の製作	子どもの生活を知り、将来へ向けて子どもとかかわり方を知る。
三学期	住生活をつくる	8	人と住まいのかかわり 快適な住まいづくり 健康的で安全な住まい環境	住生活における自立を目指し、これからの自分の生活をデザインする。

4 学習方法と生徒への注意

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による講義・グループ学習による調理及び実験実習に取り組む ・ 各授業において、集中力を持って取り組み、学習目標を達成できるように努力する。
--

5 評価の観点・方法

出席状況、課題への取り組み・授業態度、提出物の期限内の提出と内容、小テスト

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
			○	○		○			

教科・科目	家庭・フードデザイン 選択	2単位	対象学年・組	3年 選択
教科書	フードデザイン (教育図書)	教科担任	山藤	

1 目標 基礎科目における学習を基にして、食生活に関する基本的な知識と技術を身につけ、食事を総合的にデザインできるようにする。

2 学習到達目標 ①栄養、食品、調理、テーブルコーディネートなどについて理解し、関連する技術を身につける。

②食に関するニュースに関心を持ち、自分との関わりを考える

3 学習内容と学習上の留意点

学期	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	健康と食生活 栄養素・食品の特徴 フードデザイン実習	26	食事の意義と役割 食を取り巻く現状 栄養素のはたらき 食品の特徴 食品加工の目的 食品選択と取り扱い 食生活に関わる職業	望ましい食習慣や知識を習得する。 食を取り巻く現状について理解し、課題解決のための方法について考える。 ライフステージごとの栄養摂取量の特徴を理解する。 さまざまな食品について特徴、調理性、加工について理解する。 栄養士や調理師等の職業について学ぶ。
2 学期	調理と献立 フードデザイン実習	30	調理の基本 食文化を見つめる 食事テーマの設定と献立作成 テーブルコーディネート	計量や包丁の基礎的な技術を身につける。 郷土料理について調べ、生活に根づいた工夫について学ぶ。 行事食の献立を作成し、実習を行う。 日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な献立を作成し、調理技術を習得する。 テーブルセッティングやサービスの基本的な考え方・方法について学ぶ。
3 学期	フードデザイン実習	14	食事テーマの設定と献立作成	卒業祝いの献立を作成し、実習を行う。

4 学習方法と生徒への注意

- 授業時間ごとにワークシートの記入
- 食に関する新聞記事などの事例についてディスカッション、意見の記述

5 評価の観点・方法

出席状況・授業態度・提出物を総合的に判断する

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
			○	○		○			